

用耳朵听的

日本民间故事

日本の昔話を耳で楽しもう

宋晓真 曾绍琼 编著

刘淙淙 插图

巨川边城 审校

原汁原味的日本民间故事，
还原当时、当地的风土人情，
阅读、聆听、体会那些久远的
幸福和喜悦

让熟悉又亲切的声音，
穿越千百年的历史，
带你领略那些古老的传说



中国民航出版社



此一、普羅頌讚曾，真知米照樣好！

日本民间故事



中国宇航出版社

• 北京 •

版权所有 侵权必究

图书在版编目(CIP)数据

用耳朵听的日本民间故事：日汉对照/宋晓真，曾绍琼编著．—北京：中国宇航出版社，2010.1

ISBN 978-7-80218-685-9

I. ①用… II. ①宋…②曾… III. ①日语—汉语—对照读物②民间故事—作品集—日本 IV. ①H369.4:I

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2009)第 236207 号

策划编辑 于 慧

封面设计 03 工舍

责任编辑 卢 珊

责任校对 徐永智

出 版

发 行 中国宇航出版社

社 址 北京市阜成路 8 号

邮 编 100830

(010)68768548

网 址 www.caphbook.com/www.caphbook.com.cn

经 销 新华书店

发行部 (010)68371900

(010)88530478(传真)

(010)68768541

(010)68767294(传真)

零售店 读者服务部

北京宇航文苑

(010)68371105

(010)62529336

承 印 北京智力达印刷有限公司

版 次 2010 年 1 月第 1 版

2010 年 1 月第 1 次印刷

规 格 880×1230

开 本 1/32

印 张 8.25

字 数 235 千字

书 号 ISBN 978-7-80218-685-9

定 价 19.80 元

本书如有印装质量问题，可与发行部联系调换

編集者の話

子供はお話を聞くのが大好きである。昔、日本には全国各地に昔話に精通したお爺さんがいた。「紙芝居のお爺さん」と言って、子供たちに飴を売りながら紙芝居を通じて、その土地に伝わる物語や童話を語るお爺さんである。子供たちは飴を頬張りながら次から次と話してくれるお爺さんの話を目を輝かせて聞いたものである。これらの昔話はぼんやりとはあるが、子供の記憶の底に残されていく。そこに、日本の民間伝説の言いがたい魅力が溢れている。

高尚な文学と違い、民話は人々の口頭で伝えられたもので、最も我々の生活に身近なものである。それは、私たちに民間の視点から日本文化を理解する一本の道程を開いてくれた。賢いお爺さんや優しいお婆さん、のろまな田舎者などに、日本の民族風習が生き生きと現れている。また、昔話によく登場する桃太郎、狐や狸、河童（かっぱ）、天狗、山姥などにより、それぞれ日本独特の風情が伝えられている。これらの昔話から、我々は日本文化の息吹を感じられ、真実で生粋な日本語を身につけられる。

昔話を編集したのは、読者の皆さまがこの本を通して少しでも日本語を学べるようにという願いからである。

ここに選んだのは、いささか僭越だが若い人向けに、日本を代表する昔話、四十七話である。我々は、若い人々に江戸時代から今に受け継がれてきた日本昔話への理解を深めていただきたい。これらの昔話は大部分が円満で美しい終結をむかえ、最後「めでたしめでたし」のことで締めくくられているパターンが多い。笑い話や鳥獣草木が語る情景をうまく表現することで人の心に訴えかけることを重視している。多くの昔話は地元の風習に因んでいるため、内容の選定は主に日本の三大地域に跨っている、北（北海道、東北）、中国（近畿、中部、関東）、西国（中国、四国、九州）地域の民話が占めている。

本書に選定されている民間の昔話では、殆ど言葉をわかりやすい共通語に近づけた。それは、会話には生きのよい語り調を大切にしたいためで、ある程度方言を使っている。語りの楽しさを伝えるために、昔話特有のくりかえしを多くとどめている。聞き手は一つの風土を内蔵した昔話を伝えるのである。昔話の生命はその風土をはなれてはその味(又は良さ)が薄れてしまうだろう。そこで原話を重んじ、できるだけ原話に忠実であることにこだわった。原話に物足りない箇所があれば必ず同じ風土のもので補い、よりその当時の風土や人情を伝承するよう心がけた。

広く大衆に愛読される作品は作者と読者とが役柄を変えながらに共作してきたのである。私もも数知れぬ語り手たちの声に励まされながら、また聞き手たる読者にもなってこの五十話本の編集をこころみた。これらの昔話から、多くの読者が日本語を楽しみながら、日本民話の面白さを味わっていただきたい。

编者的话

小孩最爱听故事。以前在日本各地都有精通童话故事的老爷爷，被称作是“拉洋片”的老爷爷。老爷爷一边卖糖给孩子们，一边通过“拉洋片”来讲述当地流传的民间童话故事。在场的孩子们一边大口地吃着糖果，一边睁大好奇的眼睛听着老爷爷不停地给大家讲故事。这些依稀存在于每个日本儿童记忆深处的场景，体现着日本民间故事难以言传的魅力。

相比于阳春白雪的文学，流传于人们口头的民间故事更能贴近我们的生活，它给我们开启了一条从民间的角度学习日本文化的旅程：智慧的老爷爷、慈祥的老奶奶、举止笨拙的日本乡下人……呈现出日本庶民生活的点点滴滴；频频出现的桃太郎、狐狸、河童、天狗和山姥……一个个都折射着日本民族特定的风情。所有这些都能帮助我们在把握日本文化脉搏的同时，学习到最真实、最地道的日本语。

这也是我们之所以编写这本日语民间故事，来帮助读者学习日语的初衷。

在此我们冒昧地为年轻一代的读者挑选出了日本民间童话故事的代表作47篇。我们希望年轻的读者们能够了解江户时代流传至今的民间童话故事。这些童话故事大多以大团圆的美满结局而告终，风趣诙谐，并注重以鸟兽花草、自然景物来表达人的心愿。由于大多数的民间故事都带有当地的特色，我们在选材时兼顾了日本的三大区域：北国（北海道、东北），中国（近畿、中部、关东），西国（中国、四国、九州）。

书中所选用的民间故事的语言基本上是含有口语腔调的，通俗易懂的标准语。同时，为了故事生动活泼，我们也在一定程度上使用方言，并保留童话里特有的重复说法。

当讲故事的人传诵富有某地风土人情的童话故事时，如果去掉了当地的语言特征，童话就会失去它的原汁原味。因此，我们在尊重原作，尽可能地忠实原文的同时，对原文里有缺陷的地方进行了修补，力

■ 用耳朵听的日本民间故事

争还原出当时、当地的风土人情。

一部能为人们所广泛接受的作品往往是在作者与读者多次角色换位中产生的。我们在不计其数的讲故事的声音鼓舞下,又不知听了多少遍故事之后,终于编译成此书。可以说这是一部由讲故事的人和听故事的人合力编写的日本民间故事书。希望广大读者通过这些故事,既能学习一定的日语知识,也能品味到日本民间童话故事的魅力所在。

注:本书是为有一定基础日语语法知识的爱好者而编写的课外日语读物。

每课都包括日语原文与译文对照,附有生词、常用惯用句型注释,2—3个句型、语法点详解以及日本文化中出现的小知识。

本书的日本文化小知识部分主要由广州大学的方海燕负责。并感谢日籍教师山中泉的大力支持。

本书的出版受到广州大学教材出版基金的资助。

书中加标识的文章配有音频文件下载。下载地址为: www.caphbook.com/download/rbmjgs/

はじめに

「じいちゃん、じいちゃん、眠れないよ!」

「そうか、それじゃ、また昔話するわ!」

「昔々、あるおじいさんとおばあさんがいました…」

开场白

“爷爷，爷爷，我睡不着呀!”

“是吗？乖乖，那我继续给你讲个故事吧!”

“从前，有个老爷爷和老奶奶……”

目 录

CONTENTS

1\ (徐富山歌) 春头山歌	おとし ひ 大年の火(大年三十的火种)	/80
2\ (文天寿歌) 文天寿歌	あかまつ いけ 赤松の池(赤松池塘)	/85
3\ (宋兵衛尚味) さやぎ	じい うさぎ お爺さんと 兔(老爷爷和兔子)	/89
4\ (金井青) 龍」仙	たのきゅう(胡力)	/94
5\ (人猿猿歌) 龍 桃太郎	ももたろう 桃太郎(桃太郎)	/99
6\ (西条我个最イ夢)	やまんば まご 山姥と馬子どん(山妖与马夫)	/105
7\ (楊丹詩郎詩青歌)	ひゃくりょう ほり もの 百両の彫り物(价值百两的雕塑)	/111
8\ (野味歌)	いも お芋ころころ(“咕噜,咕噜”会滚的芋头)	/117
9\ (三小雲歌)	ごんべ え かも 権兵衛と鴨(权兵卫和野鸭子)	/122
10\ (菰善歌) 金なる木	かね き 金のなる木(摇钱树)	/127
11\ (市歌)	そらまめ わら すみ 蚕豆と藁と炭(蚕豆、稻草和火炭的故事)	/132
12\ (歌)	き みみじい 聞き耳爺さん(能听懂动物语言的老爷爷)	/137
13\ (市金歌)	さんねん ね たろう 三年寝太郎(三年睡太郎)	/142
14\ (歌)	きつちよむさん(吉四六)	/148
15\ (歌)	き てがみ 木のまた手紙(一封“树杈”信)	/154
16\ (歌)	つる たまご 鶴の卵(仙鹤蛋)	/159
17\ (歌)	はたおりいし 機織石(织布石)	/165
18\ (歌)	しちびき さむらい 七匹のお侍(七只“武士”)	/170
19\ (歌)	かみそり アユは剃刀(香鱼当剃刀)	/176
20\ (歌)	きつね きやくさま 狐のお客様(狐狸的客人)	/182

目 录

CONTENTS

食 く わ にようぼう ず女房(不吃饭的老婆)	/188
道心坊主和尚 どうしんぼうず おしょう こぞう 与小僧(“良心和尚”与小和尚)	/196
雷 かみなり の子 こども 供(雷神的孩子)	/202
箱根 はこね の天邪鬼 あまのじゃく (箱根山的小鬼)	/208
正月 しょうがつさま 様 さま がやってきた(正月之神)	/214
半殺 はんごろ しと手打 てう ち(手工年糕和面条)	/220
無言 むごん もんどう の間答(无言的问答)	/226
かちかち山 やま (咔嚓响的山)	/233
五分次郎 ごぶじろう (五分次郎)	/240
結び言葉	/251
後書き	/252

こやまちょうじや
湖山長者

语法要点

①体言の/用言の連体形+ために

②動詞の連用形+たはず



昔、因幡一円の富と幸せを一身に集めた長者に、
湖山長者がいました。長者の所有する田圃は、千ヘク
タールにも及ぶといえますから、驚きです。

この年も、近くの老若男女をかき集めて田植えをし
ました。大動員です。昼すぎ、親ザルが子ザルを逆さまに背負って、
畦道で戯れ始めました。田植えの手を休め、人々は大笑い。この
ハプニングのため^①、作業は遅れてしまい、気がつく、太陽が西
に沈もうとしているではありませんか。

例年、長者の田植えは一日で終えるきまりがありました。

長者は金の扇を取り出すと、高殿に上がり、太陽を三度招きま
した。

「太陽よ、もどれ!」

すると、いまにも沈み切ろうとしていた太陽が、後戻りし始めた
のです。あたりは昼のように明るくなりました。田植えは無事に終
わりました。

あくる日、自慢の田んぼを見ようと高殿に上がった長者は、びっ
くりしました。きのう植えたはず^②の早苗は消え失せ、青々とし
た水がさざ波を打っていたのです。それがいまの湖山池です。



1



湖山富翁

湖山富翁

从前，因幡一带有一个叫做湖山的富翁。他非常有钱，又很幸运，竟然拥有一千多公顷的田地。

这一年，他又召集了附近的男女老少都来给他种田。一天午后，有一只母猴倒背着小猴在田间小道上嬉戏玩耍，逗得人们哈哈大笑。人们都停下手里的农活来看热闹。因为这件事情，把农活给耽误了。到富翁发觉的时候，太阳已经快要下山了。

按照往年的惯例，这些农活必须在一天之内完成。于是，富翁就爬上了大殿，取出金扇子，向太阳扇了三次，一边扇一边喊道：“太阳啊！回来吧！”

于是眼看就要西下的太阳又升了起来。天空变得又和中午一样明亮。这一天终于顺利地插完了秧苗。

第二天，富翁要去看看插好的秧苗。他得意地爬上了大殿，一看，惊呆了：昨天插的秧苗全不见了，只剩下一片清澈的水面，微波涟漪。这就是现在的湖山池。

① 体言の/用言の連体形＋ために

表示原因。后项的结果往往是消极的、不可左右的。相当于“因为……所以……”；或者表示目的“为了……”。有时「に」可以省略。

※ 事故のために現在五キロの渋滞です。/ 由于发生了事故，现在交通堵塞了5公里。

※ 暑さのために、家畜が死んだ。/ 因为酷暑，家畜都死了。

※ 入学試験のために、夜遅くまで勉強している。/ 为了升学考试，晚上学到很晚。

※ 念のために言うておきます。/ 慎重起见，所以说一下。

② 動詞の連用形＋たはず

表示从前文的前提出发推测出结论。表示“(按理说)应该……，的确……，确实……”。

※ もう着いたはずなのに、どうして連絡が来ないのだから

う。/ 应该到了,可怎么还没有来信儿呀。

※ おかしなこと、閉めたはずの金庫の鍵が開いていた。/
真奇怪,本来锁着的保险柜被打开了。

※ ちゃんとかばんに入れたはずなのに、家に帰って見ると
財布がない。/ 明明放进书包了,可是回家一看钱包却没有了。

单词

長者 (名词) 长者、财主
ヘクタール (数量词) 公顷
逆さま (名词) 相反
畦道 (名词) 田间小路
戯れる (动词) 嬉戏、玩耍
ハプニング (名词) 意外事件

沈みきる (动词) 沉下去
扇 (名词) 折扇、扇子
田んぼ (名词) 水田
自慢 (名词) 自满、自夸、自大
早苗 (名词) 秧苗
ささ波 (名词) 波纹、涟漪

惯用句

手を休める: 歇歇手,休息一下

気がつく: 注意到,觉察到

太陽が西に沈む: 太阳落山,夕阳西下

水がさざ波を打つ: 水面起微波,涟漪微起

小知识

こやまいけ

鳥取県北東部、鳥取市街地西郊の潟湖(せきこ)。周囲長約 17 キロメートル、面積 6.9 平方キロメートル、平均水深 2.8 メートル、最深部は北部の 7 メートルで年々浅化している。コイ、フナなどの淡水魚に富んでいる。全国的にも珍しい「石」がま祭が冬季に行われている。石の隙間に潜む魚をつついて追い込み捕獲する漁法で、県指定無形民俗文化財に指定されている。また、漁期間中には石がま祭も行われ、それらは湖山池を代表する特色になったのである。

湖山池

湖山池是位于鸟取县东北部、鸟取市西郊的泻湖。湖岸线长约 17 公里，面积 6.9 平方公里，平均水深 2.8 米。深度为 7 米的北部为该湖的最深部，但正逐年变浅。湖中盛产鲤鱼、鲫鱼等淡水鱼。冬季时期该湖有全国闻名的“石锅渔”，这是将游入用石头堆起的围墙中的鱼赶至捕鱼工具里进而捕获的一种地方特有的捕捞方法，是鸟取县指定的非物质民俗文化遗产。在“石锅渔”捕捞期间还会举行石锅文化节，这些都是湖山池代表性的特色所在。



【羽衣天女】
 一人の百姓が、山腹の石の上に美しく芳しい衣

はごろもてんによ 羽衣天女



语法要点

- ①体言/用言の終止形+にちがいない
 ②動詞の連用形+てしまう



ひとり ひやくしょう さんぶく いし うえ うつく かんば ころも
 一人の百姓が、山腹の石の上に美しく芳しい衣
 おき みて
 が置いてあるのを見つけました。さらによく見ると、そ
 なが わか うつく じよせい みず あ
 ばの流れで、若い美しい女性が水を浴びているではあ
 りませんか。

「天女に違いない①」石の上の衣は、天の羽衣ということにな
 る。百姓はその羽衣を盗みました。天女は羽衣がないので天
 上に帰ることができず、百姓の妻になりました。……

すうねん た ふたり こどもも できました。てんによ は、こどもに ころも
 ありかを訊ねました。子どもは、ちちおや かく は、ころも ははおや
 わた 渡しました。てんによ まさ てん のぼ よろこ は、ころも つ
 と、天上に帰ってしまった②のです。

ふたり こ はは した な はは す おんがく
 二人の子どもは、母を慕って泣きました。母が好きだった音楽で、
 はは よ もど かんが ちか やま のぼ おおつづみ ふえ えんそう
 母を呼び戻そうと考えました。近くの山に登り、大鼓と笛を演奏
 しました。てんによ ころも お やま う え し やま こ
 天女が衣を置いていた山を羽衣石山、また、子どもたち
 いっしょうけんめい おおつづみ う ふえ ふ うつがきやま
 が一生懸命、大鼓を打ち笛を吹きならした山を打吹山とい
 います。



羽衣天女

一个农民在大山的石头上发现了一件美丽的、散发着芳香的衣

服。他回头一看，在旁边的河里，竟然有一个年轻美丽的女子在洗澡！

“一定是个仙女”他想。那么，放在石头上的衣服就是天上的羽衣啦。于是，他偷走了那件羽衣。

仙女因为没有羽衣，不能回到天上，后来就成了这个农民的妻子。

过了许多年，他们生的两个孩子也长大了。仙女向孩子们打听羽衣的下落，孩子们就把父亲收藏的羽衣转交给了母亲。仙女心想：“可以回到天上了，真高兴呀。”于是她穿上羽衣，回到天上去了。

两个孩子因为想妈妈，每天都在伤心地哭。他们想：“用妈妈以前喜欢的音乐来把她召唤回来吧。”于是，他们爬上了附近的山，不停地敲大鼓、吹笛子。

现在，人们把仙女放羽衣的那座山，叫做“羽衣石山”。而把孩子们拼命敲大鼓、吹笛子的那座山，称为“吹打山”。



① 体言/用言の終止形+にちがいない

表示准确性较高的推测。有时也有断定的语气。相当于“一定是……”，“肯定……”。

※ あんなすばらしい車に乗っているのだから、田村さんは金持ちにちがいない。/ 田村开那么好的一辆车，一定是有钱人了。

※ 犯人はあいつにちがいない。/ 那家伙肯定是凶手了。

※ 宝物はこの島のどこかにあるに違いない。/ 宝物肯定在这个岛上的什么地方。

※ 東京はもう随分寒いに違いありません。/ 东京肯定已经很冷了。

② 動詞の連用形+てしまう

表示动作或状态的完成，相当于“……完了”。口语中也用「…ちまう」、「…ちゃう」、「…じまう」、「…じゃう」的形式。

※ この本もう読んでしまったから、あげます。/ 这本书我已经看完了，给你吧。

※ 仕事はもう全部完成してしまった。/ 工作已经全都做完了。

※ 宿題はもう全部やっちゃったよ。/ 作业已经全部做完了。